

7. 超自然的知識

7-1. 山・川・海

7-1-4. 川・沢・水の神

祭壇（イナウチパ inaw cipa）には、ワクカ ウシカムイ wakka us kamuy（水の精）が祀つてある。チワス コル カムイ ciwas kor kamuy は「流れのきつところの神」だ。これも祭壇に祀つてある。

[門別 鍋沢強巳氏]

7-4. 小動物

7-4-1. 小獣類

パーセオンカミ pase onkami（一番敬う）としてフーリ hūri（ワシの神）を敬っていたのは鍋沢家だけで、鳩沢家とか平賀家はワシの神とは関係が無い。平賀の人達は、大津波の時村を守った黒いキツネ（クネネチロンヌブ kunne cironnup）を敬っていた。鳩沢の人は何を一番祈っていたのか知らない。パーセオンカミする神はどのコタンでもあるはずだ。必ずあるものだ。クマに助けられたとかキツネに助けられたとか、恩があるものをパーセオンカミとして敬う（門別編11-2-2、貫気別編11-2-8参照）。

[門別 鍋沢強巳氏]

7-4-2. 鳥類

鍋沢家では、ワシの神（フーリ hūri、ワシよりも大きな鳥でチカポイ cikapoyともいう）をチカプカムイ cikap kamuy（鳥の神）と呼び、パーセオンカミ páse onkami（一番最大の神）として、祭壇で祀っていた。

父から聞いた話では、ワシを拜むのは、昔、飢饉で困っているときに皆を助けてくれと頼むとシカでもクマでも持ってきてイナウチパ inawcipa（祭壇）に落としてくれた。それでみんなが救われたことがあったのでワシを祀るようになったという。父からフーリについてのウパシクマ upaskuma（伝説）を聞いたことがある（門別編11-2-2参照）。

[門別 鍋沢強巳氏]

7-7. 火

7-7-1. 火の神

火の神は、カムイフチ *kamuy huci* とかアペフチ *ape huci* という。火の神のイナウは、チェホロカケブ *cehorkakep* (逆さ削りの木幣) でイヌンペサウシペ *inunpesauspe* (炉隅の丸太) の近くに立てる。(門別編9-3-2参照)

[門別 鍋沢強巳氏]

7-9. 家の神

家の神は、チセコロカムイ *cise kor kamuy* といい、屋内の宝壇のある東の隅に立ててある。直径5寸くらいの太さ、高さ60cmくらいの皮つきエンジュの木(イナウにはヤナギの木を使う)で、上は平になっていて、正面になるところは下へ斜めに切り落としてある。上端から1寸くらい下にキケを鉢巻状にしぼり、そこにキケを挟んで下に垂らす。隅の柱の両横に釘を打ち安定させるようにしてからキケで柱にしぼりつける。

この家の神は、家を立てたときに初めて作る。だから昔からずっと同じ物を長年にわたり使う。チセコロカムイにイトクパ *itokpa* (祖印) はつけない。イトクパはパスイ *pasuy* (箒) や刀の鞘にはつけるが、イナウにもつけない。

家の神のキケは大きな祝い事がある時にはつけ加える。キケは家の神の着物と同じだから衣替えする。古くなったキケは粗末にはできないので炉で焼く。キケをつけ加えるのはいつと決まっているわけではない。酒を作った時にはかならず家の神に酒をささげキケをつけ加える。

たとえば、各家で正月に行うまつり、アシリパノミ *asir pa nomi* の時に家の神に酒をささげてキケをつけ加える。祭壇の神々、ワッカウシカムイ *wakka us kamuy* (水の神) (門別編7-1-4参照) やシランバカムイ *siranpa kamuy* (木の神) (門別編7-1-6参照) にも祈る。木の神は、どの木でも神である。特別に偉い神というのはない。正月のカムイノミは、一家の安全を祈るためにする。

炉縁でカムイノミをしているときに、炉縁に座ったままで顔を家の神の方に向けて、チセコルカムイ ア ノミ ナ *cise kor kamuy a nomi na* と言ってから家の神に祈る。

[門別 鍋沢強巳氏]

うちのじいさん(元蔵)は、昭和26年にある宗教に入ったので、もうアイヌプリ *aynupuri* (アイヌ伝統のやり方) しないからと村人を皆よんで、謝って、チセコロカムイ *cise kor kamuy* もオプニレ *opunire* (送る) した。また、チカブサパカムイ *cikap sapa kamuy* といってフクロウの頭(門別編6-4-8参照)があつたのだが、それも始末した。送りは見ていないのでどういう風にしたか分からない。

[門別 鍋沢強巳氏]

7-10. 戸口の神

他に家の中にいる神には、ソーパウシカムイ *so pa us kamuy* がいる。これは、宝檀の神で特にイナウを作ることはないが、カムイノミの時に祈りを割り当てられた人が行う。

また、アパウシカムイ *apa us kamuy* とか アパコロカムイ *apa kor kamuy* と呼ばれる神には柱の横の壁にイナウに鉢巻してそこにキケを刺す。高さ60cmくらい、細くて1寸~1寸5分くらいのイナウだ。モセム *mosem* (下屋) にはイナウは何もない。

アイヌは鳥でも虫でもカムイと言ったが窓にはキケをつけたりしない。窓の神とも言わない。トイレにもイナウをつけることがない。

[門別 鍋沢強巳氏]